

「ギャンブル依存は病気」

回復施設長・三宅さん 経験語る

ギャンブルをやめられず、仕事も手につかない。こうしたギャンブル依存症(病的賭博)に陥った人を対象にした西日本で初めての回復施設が4月、大和高田市に開設された。施設長の三宅隆之さん(36)は「ギャンブル依存症に苦しんだ過去を持つ。『依存症は病気。治療が必要だ』と訴える。



三宅隆之さん

に苦やかな電子音ととも
に玉があふれ出る。うらや
まじげな視線を周りから感
じ、全身が震えた。初めて
のパチンコで当たり。

「気持ちいい」と思った
三宅さんは1994年、
福島県の国立大に入学。
「第一志願ではなく、やる
気が出なかった」。同年
夏、先輩に誘われ、初めて
パチンコ店に。大当たりす
ると、挫折感や劣等感を忘
れることができた。

「パチンコが人生のすべ
て」になった。親からの仕
送りや夜間のバイト代を
つぎ込んだ。88年に福島
県のラジオ局に就職して
からも、うその用事を作
っては外出し、パチンコ
へ。消費者金融から4年間
で600万円の借金を重
ね、親に全額貸わりして
もらった。

そのころ、初めて精神科
医の診察を受けた。「あな
たはギャンブル依存症。治
療が必要だ」と訴えられ

治療90日間 ■ 家族支援もプログラム

奈良ダルク内に設けられ
た回復施設「セレンティー
パークジャパン・グラノー
スケアセンター」では現
在、ギャンブル依存症の男
性10人が共同生活を送り、
90日間の治療プログラムを
受けている。出身地は東北
から九州まで、年齢も20
代と幅広い。グラノースケ
アセンターで「一種」の意



講義を終えて感想など
を語り合う施設の入所
者ら。大和高田市

ギャンブル依存症 1980年に米
国で精神疾患とし
て認定された。ギャンブルをやめられず、借金を繰
り返すなどの症状が出る。2009年の厚生労働省
の調査では、国内の患者は400万人以上と推測。
回復施設は横浜市内に3カ所あり、自助グループは
全国に約100カ所ある。

療しないと将来は刑務所か
自殺だよ」と言われたが、
今度は会社の金を使い込
み、2003年9月、退職
に追い込まれた。

04年1月、東京のラジオ
局に再就職したが状況は変
わらない。ヤミ金に手を出
し、再び会社の金を抜き
取った。借金の返済額より
多めに盗み、余った金でパ
チンコに行った。

すぐにばれ、窃盗容疑で
書類送検。示談成立で起訴
はされなかったが、会社は

味。サポートの輪が全国に
広がってほしいという願い
を込めた。

普段は米国アーカンソー
州の回復施設セレンティー
パークのテキストをもと
に、三宅さんら2人の講師
が「自分の過ちを認める」
「傷つけた人に埋め合わせ
する気持ちを持つ」などの
テーマで講義し、質疑応答

を交わす。
運営するセレンティーパ
ークジャパン(0745・
24・2050)の矢沢祐史
代表理事(35)は「ギャン
ブル依存症は個人の意志の問
題とされ、対策が遅れ気味
だった。病気としてとら
え、治療が受けられる施設
が必要だ」と話す。

入所者は治療が終わって

その後、自分の体験を自
助グループで話すように。
昨年10月、大和高田市の業
物依存回復施設「奈良ダルク
」から、ギャンブル依存
症回復施設の開設に向けて
協力を打診された。「もう
自分のような人間を出した
くない」と引き受けた。

も、社会復帰できるまで施
設にとどまることができ、
就職のサポートも受けられ
る。身内のギャンブル依存
症に悩む家族へのサポート
にも力を入れる。

「ギャンブル依存症」の
著書がある精神科医で、北
海道立精神保健福祉センタ
ーの田辺等所長は「患者は
借金を重ね、生活の基礎を
失う人が多い。社会復帰に
向けた施設が関西にもでき
たことは大きな意味があ
る。治療すれば回復する病
気だという認識が広まって
ほしい」と話す。

(田中祐也)



(田中祐也)